

# 市の民の声



知覧町 西元

## 取違 逸夫

### 老いの線

人は誰しも老いていく。老いることは、未経験の世界を生き続けることだからどんなことが待っているかわからない。

7月3日の南日本新聞に「75歳以上医療費1兆円」と大きな見出しで出ていた。後期高齢者の医療費が、医療費全体の3分の1を占めると書いてあった。あたかも、高齢者を責めるような発表である。高齢者も若い時には、健康で医療費も少なくて良かったはずである。健康な体は、皆が願うことである工夫し

て生きている。しかし、長く使用したのだから部品が消耗して壊れてしまうのは当然のことで、故障したら直してまた使いたいと思っているのである。

少子で高齢者の多い社会が到来するのは、ずっと前からわかっていたことなのに、今しきりに騒ぎ立てて医療福祉関係の支出が大きな割合を占めるのは困ったものだとその抑制策に躍起になっている。

梅雨間近になると、早朝から川の草払いの機械の音が聞こえる。どの集落も働き手の殆どが高齢者たちである。自分たちの環境・自然は、自分の手で守ろうとする自助の思いだ。地域に愛着を持ち、活気あふれる地域づくりに精出している高齢者たちである。声は出さないが頑張っている。



頴娃町 別府

## 摺木 悟志

### 児童・生徒の部活動へ「支援策」を

部活動で、夢と希望を持って頑張っている小・中・高校生の皆さんと育成に携わっている指導者・保護者の皆さんに大きな拍手と敬意を表します。

この人たちを何らかの形で支援できないかと願う者である。大隅、北薩方面での対外試合や交歓大会は一泊を要し、保護者の負担は大きい。児童の場合など保護者も同伴となればなおさらだ。指導者たちも自家用車で送迎している。

対策として、各種大会などを地元南九州市で実施することで遠征費の削減になる。そのためには宿泊施設などの環境整備が必要である。例えば、

えい中央温泉の施設設備は明るくて清潔で従業員が、残念ながら宿泊施設でないのが惜しまれる。研修室、大広間があるのにできないか。入浴料などを半額にして、利用者を増やすことで、地域活性化につながり「一石二鳥」である。

部活動で心身を鍛え、やがて南九州市の担い手となるこの人たちの支援策に期待します。



## 編集後記

知覧の「ねぶた祭」や川辺の「祇園まつり」など夏の行事が次々と催されている。

景気の閉塞を打破しようと、国においては通常国会で本予算に続き、二度にわたって補正予算が打ち出された。

経済対策の火薬を詰め込んだ大型花火が、一夜のお祭りに終わらぬよう祈りたいものだ。

8月23日には「えいのゴッソイまつり」も行われるが、南九州市は、夏のお祭りが秋の実りへとつながるよう、今回の予算が生きることを願っている。

(森田 隆志)

### ▼広報編集委員会

- 委員長 森田 隆志
- 委員 竹迫 毅
- 委員 田畑浩一郎
- 委員 山下つきみ



編集作業に取り組む委員ら